



旧北国街道板取宿に息づく4棟の茅葺き民家 2つの家族が暮らしながら歴史的環境を守る (撮影/米山淳一)

保存から管理・運営・経営 そしてさらなる高みへ

公益社団法人横浜歴史資産調査会会長 古賀 学

横浜歴史資産調査会は今、新たな局面に立たされている。

横浜野毛文化を象徴する1つである都橋商店街、北海道の鉄道資産群である旧山田コレクションの取得、保存、活用についてはすでに周知の通りだが、さらに昭和14（1939）年に久米設計創設者久米権九郎の設計により建てられた逗子「旧日本多邸」（逗子市・国登録有形文化財）の取得、保存、活用について実施の方向で手続き等を進めている。

旧日本多邸は令和6（2024）年所有者の久米設計により修復済みで、特徴は木造による耐震化を目指して考案された「久米式耐震木骨構造」で建造された。同形式を用いて久米権九郎が設計したのが軽井沢万平ホテル（アルプス館）と日光金谷ホテル（別館）である。現在、旧日本多邸の活用においては、新たな文化交流拠点としての役割を担うことが求められている。

久米権九郎を柱とした建築物を連携することは、世界遺産における「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」であり、点在する資産の連携としてのトランス・バウンダリー・サイトとして利用活用されている生きた真の日本の遺産となり得るであろう。

実は、こうした活動はシルクロードネットワークなどとも言えることであり、全国的なネットワーク活動による連携と

個々の強化なども当公益社団に期待される好氣的な事業展開であるといえる。

旧日本多邸においては、建築文化や技術の継承とともに、地域の方々やワーケーションの場など新たな地域活動拠点としての役割があるだろう。当公益社団においては、日本遺産の構成文化財である山田コレクション鉄道車両群、登録有形文化財である都橋商店街などをはじめとした保護資産は、その活用・管理・運営、さらなる生きた保存という大命題に直面している。このような状況において、当公益社団法人は、ネットワークを踏まえた全国レベルの様々な活動推進の旗振りから地域における多様で多彩な支援・推進活動ができる実務的組織である。

そのためには、まずは組織内の運営体制の強化、運営のための安定的財源の確保、そして最も期待されるのが官民の関係組織、地域住民そして本組織をご支援いただいている皆様のさらなる継続的なご理解と協働体制だと信じてやまない。

今後とも「歴史を生かしたまちづくり」の先鋒である横浜市と力を合わせ、これを軸とした日本文化の活用拠点として、さらなる高みを目指して柔軟かつ勢いを持って事業を推進していく所存である。

日頃、当ヨコハマヘリテイジの活動に格別のご支援、ご協力を賜り、ありがたくお礼申し上げます。

皆さまのお力添えのおかげで、各事業は様々な困難を乗り越えて進んでおります。令和8年度も調査、保護、普及啓発など3本の柱をもとに「歴史を生かしたまちづくり」を微力ながら推進して参ります。今号にて事業内容等を紹介します。

調査、保護事業等の多くは、以前からの継続事業です。「遅々として進まない」とのお声を真摯にお受けいたし、微力ながら10年いや2、30年かけてもやり遂げる覚悟でございます。

なお、昨年度をもって日本鉄道保存協会の代表幹事団体・事務局を辞め、シルクロード・ネットワーク協議会の代表幹事団体・事務局として全国各地の仲間と絹文化の継承に力を注ぎます。絹貿易が横浜やわが国の近代化の礎になったことを忘れないために。

(常務理事 米山淳一)

(1) 調査事業

《負担金事業》

●横浜市との協定書に基づく建造物保全・活用計画関連調査

歴史的建造物を保全・活用するため、横浜市都市整備局との協定書に基づく調査事業として歴史的建造物保全活用計画関連の調査等を実施します。

この調査は、所有者へのヒヤリング、歴史的建造物に関する文献調査、写真撮影、現地確認、関係図面の作成、地図へプロットする等により実施し、調査によって得られた知見を当公益社団の公益目的事業である「歴史を生かしたまちづくり」の内容検討に活用するとともに、具体的な歴史的建造物

の保全・活用における方針の策定や横浜市登録、認定歴史的建造物、または、国登録有形文化財、重要文化財指定等に向けた課題を整理し、所見の作成等を行います。

また、当公益社団所有の野毛都橋商店街ビルの将来に亘る保存・活用・修理・管理計画調査を行います。

《自主事業》

●建築家J.H.モーガン自邸の再建に向けた調査(藤沢市)

令和3年度に当公益社団に設置した「旧モーガン邸再建委員会」を中心として、NPO法人旧モーガン邸を守る会・藤沢市等と連携し、「復元再生調査報告書」(平成29年度実施)に基づいて再建に向けた具体的な再建、活用、管理のための調査等を継続して参りました。しかし、建設費の高騰、藤沢市との土地所有区分の関係など、事業の方向性を再調整することになりました。焼損から19年目を迎える今年度は、復元ではなく、モーガンの自邸としての再建に向けた新たな取り組みに照準を合わせた形でモーガン邸再建委員会やワーキング会議を開催し、その提言を基軸として将来にわたる保存、活用、管理計画の作成を行います。

●横浜市内近代化遺産調査

約11年前に行った近代化遺産としての鉄道遺産調査は時間が経過し、その後の現状把握が行われていません。令和5年、鉄道開業150周年記念事業として文化庁の助成のもと、神奈川県内の鉄道遺産調査を行い、現況を把握し、報告書を発行、配布、写真展の開催などを行っています。

今回は、その中から歴史、文化、技術的等に優れた対象を



山手外国人住宅エリアに残るベリックホールはモーガンの設計



煉瓦造りの門柱とアイアンワークの扉が美しいモーガン邸の中門



横浜臨港線の瑞穂橋梁はそれまでのリベット構造と日本初の溶接工法の両方の技術で造られた貴重な鉄道橋

選び、将来にわたり保存、活用することを目的とした調査を行うものであります。

当公益団体の専門委員：小野田 滋氏らを中心とした既存の鉄道遺産調査隊を強化し、実施いたします。

●山手地区西洋館などの保全対策調査

令和4年～5年にかけて山手地区西洋館の保存、活用のあらたな展開を模索する所有者、関係団体などにヒヤリングを行って来ました。



居留地時代の面影を残す山手西洋館の一つエリスマン邸

新たに令和5年度から都市デザイン室が歴史まちづくり法にもとづく歴史的風致維持向上事業を行うことになりましたが、当公益団体は、独自に重要伝統的建造物群保存地区として山手西洋館群や周辺の歴史的資産の保存活用に向けて所有者などへのヒヤリングを行います。

※参考：開港5都市の函館市元町・末広町、神戸市北野地区、長崎市東山手、南山手地区は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

●「歴史を生かしたまちづくり相談室」関連の調査

- ・案件が出て調査が可能ならば適宜、行う予定
- ・稲荷山の生糸商の現況調査(長野県千曲市稲荷山・重要伝統的建造物群保存地区)

稲荷山地区は、信州の絹文化の交流拠点としてまた、横浜と生糸交易で繁栄しました。現在でも約650mに及ぶ歴史的

町並みには、かつての反物や生糸関連の土蔵造り商家が軒を連ね、当時の賑わいを偲ぶことができます。



稲荷山の重伝建地区に建つ田中園は地域活性化のために修景された第一号店舗

地元の研究者と共に稲荷山と横浜の交易に関

する調査を行い、絹産業がもたらした地域の経済、文化交流の証を解き明かします。また、絹文化を紹介する交流文化拠点設置の為の調査をいたします。

近年、伝統的建造物の修理が進み約20棟を数える。これらの対象の取得や借入も検討します。

●横浜焼・井上良斎窯場等の保全対策調査 (横浜市南区南永田)

近代横浜の陶磁器産業として真葛焼と並び発展したのが横



井上良斎窯場には煉瓦造りの希少な登り窯が保存されている

浜焼です。現在、登り窯や作業場、住居が当時のまま残る貴重な事例で、所有者により保存されています。当地は湧水が豊富で、その地形を利用した自然観察の場としても活用されています。



窯場に隣接する仕事場では作業の様子を伝える往時の雰囲気漂う

所有者の理解のもと、歴史的陶磁器生産の場と谷戸の自然地を併せ持った地域資産として保全する方策等を当公益団体が市民、行政、専門家と共に考えます。

(2) 保護事業

《自主事業》

歴史的資産の調査結果に基づき、保護事業を行います。保全が必要とされる歴史的建造物等には支援体制を整えます。さらに、保護事業対象として位置付け、保存、活用を目的に取得、修理、管理等の取り組みを積極的に行います。

●「野毛都橋商店街ビル」の保全・管理(横浜市中区野毛)



大岡川に沿って緩やかなカーブを描く都橋商店街ビルは野毛のランドマーク

当公益団体の保護資産第1号である「野毛都橋商店街ビル」(横浜市登録歴史的建造物)の保全・管理を行います。横浜市都市デザイン室と力を合わせ、将来にわたる保全・管理計画の策定を継続いたします。

●「旧湘南電気鉄道瀬戸変電所」

(現京浜急行電鉄・横浜市金沢区瀬戸)

瀬戸変電所は、旧湘南電気鉄道時代の貴重な遺構です。平成26年から変電所に勤務していた方々へのヒヤリング調査を皮切りに平成29年度、30年度の耐震、地盤調査、令和2年度、令和3年度建物の耐震補強や修理計画、さらに令和3年度に行った事業化の検証を基に保存、活用、管理に関する実践的な調査を行ってきました。この結果、令和6年度に京浜急行電鉄から具体的な寄贈範囲が示されたことを受け、令和8年度は、変電所建物の寄贈を受けることを前提に将来にわたる保存、活用、管理計画の策定を継続いたします。

なお、令和元年度に当公益団体が設置した「旧湘南電鉄瀬戸変電所保存活用委員会」(委員長後藤治工学院大学前理事長・当公益団理事)を引き続き開催します。

併せて、会員や関係者を対象とした見学会を適宜、開催します。



京急金沢八景駅上りホーム脇に建つ瀬戸変電所の保存・活用・管理計画を策定

●建築家J.H.モーガンの自邸(藤沢市)の再建・保存・活用事業の推進

火災で焼損したJ.H.モーガンの自邸の復元再生調査報告書(平成29年度実施)に基づき、再建事業を推進します。公益財団法人日本ナショナルトラストから焼失した建物と敷地約2,000坪の内の約3分の1の土地、保険金の一部の譲渡を受けました。本年度も、NPO法人旧モーガン邸を守る会、藤沢市、藤沢商工会議所等と力を合わせて再建と活用に向けた資金確保のための募金活動をより推進します。

また、この目的達成のため長年、管理、公開等を行っているNPO法人旧モーガン邸を守る会と敷地の3分の2を所有する藤沢市との連携強化をはかります。



モーガン邸復元予想図

●山田コレクションとその保管庫の取得・保存 (北海道江別市)

令和7年2月14日開催の臨時理事会で受け入れが承認され

た歴史的車両群(通称:山田コレクション、当公益社団法人が代表幹事団体を務める日本鉄道保存協会が所有する北海道の炭鉱で活躍した蒸気機関車15両、日本遺産「炭・鉄・港」の構成文化財)とその保管倉庫(篤志家所有の木造平屋建て2棟、土地約600坪)の取得・保存を行います。

また、地元江別市や市民団体と力を合わせて一般公開に向けた仕組みづくりを加速いたします。



山田コレクションの保管庫には歴史的な蒸気機関車等が保存されている

(3) 普及啓発事業

《受託等の事業》

歴史的資産に関する専門家の育成や歴史を生かしたまちづくりに関する市民の理解を深めるために横浜市都市整備局からの負担金事業として実施します。

また、公益財団法人横浜市緑の協会から、同財団が管理、公開する俣野別邸や山手西洋館他の活用アドバイス等に関する事業を受託事業として実施します。

●横浜市都市整備局からの協定書に基づく負担金事業

- ・「歴史を生かしたまちづくりセミナー」を開催します。
テーマ 横浜の伝統産業の保全の予定
- ・『横濱新聞』第41号を発行いたします。



昨年度発行の最新の『横濱新聞』第40号

●公益財団法人横浜市緑の協会からの受託事業

- ・俣野別邸、旧伊藤博文金沢別邸等の職員向け研修セミナー



木場花木園旧藤本家住宅でも市民セミナーを開催



四季の移ろいを感じさせる庭園も魅力的な保野別邸



受託する保野別邸で講座を開催 森まゆみ氏の講演

を実施します。

- ・保野別邸、馬場花木園旧藤本家住宅等で、職員向けや市民向けの講座などを開催します。

《自主事業》

●コンサートinヘリテージ「ピアノが案内する横浜の歴史とまちVol.12」の開催

「横浜山手芸術祭」の一環としてピアノコンサートを今年度も令和9年1月31日(日) 14時から山手西洋館で開催します。



横浜山手西洋館ベリック・ホールでのピアノコンサート

●「シルクロード・ネットワーク協議会フォーラム2026秩父大会」の開催支援

シルクロード・ネットワーク協議会の代表幹事団体として、絹産業で横浜に繁栄をもたらした関東甲信越、東北各地等の市町村と連携して発足した同協議会。これまで関連市町村で絹文化の啓発や関連する歴史的建造物等の保全、活用をテ-



シルク大会は5月に2日にわたって秩父で開催 パネルディスカッションなどを実施

マに、NPO法人街・建築・文化再生集団(略称RAC)等と連携し、開催してきました。

「シルクロード・ネットワーク フォーラム2026秩父大会」(講演会、シンポジウム、見学会等)の支援をいたします。

これまで横浜市、新庄市、福島市、鶴岡市、南砺市、神戸市、白川郷等で開催しました。

●全国近代化遺産活用連絡協議会(文化庁)との連携

我が国の近代化に貢献した産業、交通、土木遺産の保存活用を目指して活動する同協議会と連携し、近代化遺産や鉄道遺産等の保存活用を推進します。

(4) 会員事業

《自主事業》

当公益団体の事業への継続的な支援を確保するために、ヨコハマヘリテージ・サポートクラブ会員の募集と併せて、幅広く会員ボランティアによる活動や見学会等を推進します。

- ・会報誌『ヨコハマヘリテージスタイル』を年4回発行します。
- ・ホームページを充実します。
- ・『横浜新聞』第41号を発行いたします。

(5) 「歴史を生かしたまちづくり相談室」の運営

横浜市内や神奈川県内等には多くの歴史的建造物等の歴史的資産が数多く存在しています。時代と共に取り壊される運命にある対象も年々増えています。しかし、これらの歴史的建造物は、一度壊してしまうと元には戻せません。また、歴史的建造物の老朽化、居住性の低下、修理費、固定資産税や相続税などが障害となり、保全・活用を行いたくても出来ないで悩んでいる方が多くおられます。

そこで、様々な相談に対応し、瞬時に調査、保全の提案、修理、住まい手紹介、取得等の有効な手当を行うことが必要とされていることから、平成26年に「歴史を生かしたまちづくり相談室」を開設しました。この相談室は、将来にわたる「歴史を生かしたまちづくり」に大切な、歴史・文化資源を確保することを目的として運営に力を注いできました。迅速な対応で現地に出向き、相談に応えます。



シルクロードでつなぐ街と人

シルクの街『秩父の歴史を活かしたまちづくり』

開催報告

創立12年目を迎えた「シルクロード・ネットワーク協議会」の令和8（2026）年第12回シルク大会は、秩父夜祭で知られる埼玉県秩父市で開催（当公益社団が代表幹事団体・事務局）されました。秩父は古くから絹産業が盛んで、秩父の経済や文化の発展に大いに貢献してきました。現在市内の養蚕農家はわずか1軒（埼玉県内でも3軒）になりましたが、自然に育まれた土地柄と伝統の技が受け継がれている織物の生産は、まちの顔としていまも生き続けています。秩父大会のフォーラムには各地から約60名が集まり、翌日の街あるき見学会には40名ほどが参加し、2日間にわたってシルクの歴史や魅力を存分に体感することができました。



清野秩父市長は秩父銘仙のジャケットを身にまとい開催歓迎の挨拶



養蚕や機織りの様子 秩父夜祭の歴史などを紹介する柳氏



シルクの町から事例報告 新庄市の高橋氏



登壇者6名によるパネルディスカッション

●開催日時・場所

- ・期日／令和8年5月23日（土）、24日（日）
- ・場所／フォーラム（23日）：秩父市歴史文化伝承館ホール
見学会（24日）：秩父市内
- ・主催／シルクロード・ネットワーク協議会
- ・共催／公益社団法人横浜歴史資産調査会
NPO法人 街・建築・文化再生集団（RAC）
- ・後援／秩父市・秩父市教育委員会・
一般財団法人大日本蚕糸会

●実施プログラム

5月23日（土）フォーラム

- ・12:30～ 受付
- ・13:00～ 開会挨拶
古賀 学 公益社団法人横浜歴史資産調査会会長
来賓挨拶 清野和彦秩父市長
- ・13:15～ 記念講演 「秩父の絹文化の系譜」
柳 正博氏（秩父市文化財保護審議会委員）
- ・13:45～ 基調講演 「秩父の絹産業」
久米悠平氏（影森養蚕所長）
- ・14:15～ 事例報告 絹の町から新庄市、日野市、前橋市、
南砺市
- ・14:55～ パネルディスカッション
【パネリスト】
高橋 潤氏（新庄市商工観光課長）
宮前昌美氏（ちちぶシルク研究分科会会長・
秩父市議会議員）
坂本 勝氏（埼玉建築士会員）

荒牧澄多氏（川越蔵の会）

【コーディネーター】

後藤 治（公益社団法人 横浜歴史資産調査会理事・
工学院大学前理事長）

【コメンテーター】

米山淳一（公益社団法人 横浜歴史資産調査会
常務理事）

- ・16:55～ 総括・閉会

星 和彦（NPO法人 街・建築・文化再生集団
理事長・前橋工科大学名誉教授）

5月24日（日）見学会

- ・9:30～ 受付 秩父神社大鳥居前・講師紹介
- ・10:00～ 街あるき 秩父神社・番場通り・黒門通り・
買継商通り・ちちぶ銘仙館等
街あるき終了後自由解散（希望者は影森養蚕所
見学）

●開催レポート

◆フォーラム（5月23日） 秩父市歴史文化伝承館ホール

13時過ぎ、総合司会の開会宣言に続き、古賀学会長の挨拶で、第12回の秩父大会が始まりました。最初に来賓の清野和彦秩父市長からは開催の歓迎のご挨拶を賜りました。深くシルク、養蚕にかかわってきた町づくりのポリシーは「個性ある地域の力をいかして分かち合いの秩父をつくる」と語られました。最後にジャケットとネクタイを示し、秩父銘仙を着用してきたとのPRも加えてくれました。

柳 正博氏の記念講演は絹文化の歩みと夜祭を解説していただきました。昭和30年代は桑畑が町中に広がり、約7割が

織物関係を営む町だったと往時を振り返り、機屋からの機械音の1回のガチャンという音で万の金が入ると言われた「ガチャ万」時代の回想は地元ならではのエピソードでした。

続く基調講演では、秩父市内で唯一稼働する養蚕農家である久米悠平氏から養蚕の歴史や現状、今後の展開などをお聞きました。昭和5（1930）年に全国に約221万戸あった養蚕農家が、令和7（2025）年にはわずか113戸に減ってしまった現状や養蚕の継続への課題、役割と価値などが語られました。これからは生産とともに体験学習やアートなど潜在的価値を活用することで繭生産のみならず他分野や他業種に働きかけて社会的な課題を克服する可能性を探ってゆくなど、新たな試みを力強く述べられました。

第一部の最後は絹の町から新庄市、日野市、前橋市、南砺市の方々から順にシルクとのかかわりや町の見どころ、近況などスライドを交えての報告を受けました。

第二部のパネルディスカッションでは、コーディネーターに後藤治氏、コメンテーターに米山淳一氏、パネラーに高橋潤氏、宮前昌美氏、坂本 勝氏、荒牧澄多氏が登壇されました。最初に荒牧氏から蔵の町川越の祭り、織物の歴史・活用、町並みの保存などが発表されました。続いてシルクの町が貿易の町横浜を目指した鉄道を「シルクロードはレイルロード」と提唱する米山氏から創立12年を迎えるシルクロード・ネットワーク開設の経緯を述べられました。そしてシルクで栄えた横浜の歴史を生かしたまちづくり、取り組み、また全国のシルク関連の町の様子などを数多くの写真とともに紹介されました。さらに第一部の事例報告で登壇された新庄市の高橋氏からもコメントをいただきました。

3人のプレゼンテーションに続いて地元の坂本氏と宮前氏から他地域に対する取り組み方の感想と、秩父で行われている活動などの報告が行われました。その発表を受けて荒牧氏は市民の力で行政を巻き込んだまちづくりや着物文化の勧め、高橋氏は伝統産業をいろいろな立場の方の参加や活動を、米山氏からは舞台は満点、土壌はあるので上手に活用を、とエールが送られました。さらに地元両人から連携の大切さや秩父銘仙のさらなる普及活動など、今後の抱負が語られました。

進行役の後藤氏からは、国指定重要文化財の建造物が存在しなくても国登録有形文化財の建造物が存在すれば歴まち法に基づく歴史的風致維持向上事業が実施可能な時期が来るかもしれないとアドバイスがあり、登録文化財が豊富な秩父市には大きな励みとなりました。フォーラムの締めくくりは清野市長に感想をいただき、星和彦氏の総括で終了しました。

◆秩父街あるき見学会(5月24日)

翌日は秩父神社に集合、参拝後は社殿に施された絢爛な彫り物などを見学し、講師の埼玉建築士会秩父支部の方々の案内でA・B班に分かれて街あるきに出発しました。

同行したB班では、黒門通りに残る3軒の旧秩父銘仙出張所の建物を見学後、1本西側の買継商通りを歩きました。さらに秩父ふるさと館や現在でも週に3回営業する昭和11年開

業の銭湯「たから湯」を訪ねたあと、秩父観光のメインスポットとなる番場通りへと足を向けました。石畳の通り沿いには登録有形文化財に登録された建物やそこを活用した飲食店が並び、古風な小池煙草店や旧大月旅館別館、カフェ・パリーの前では立ち止まる観光客が多く見られました。

秩父鉄道御花畑駅は番場通りの南端に近く、駅前に立つと秩父夜祭の笠鉾・屋台の曳き回しの難所といわれる団子坂が踏切の向こうに見えます。河岸段丘の地形に作られた団子坂の急坂もさることながら、祭り当日には背の高い屋台を通すために秩父鉄道の架線が踏切の部分だけ外されるといった興味深い話を聞くことができました。

団子坂を上ると秩父夜祭で屋台が曳きそろえられる場所、御旅所が現れます。ここから見える武甲山と、秩父神社の関係や夜祭の神事などをあらためて知ることができました。最後に繊維工業試験場として建てられ、現在は秩父銘仙の歴史や技法などを紹介する「ちちぶ銘仙館」へ向かいました。

その後、希望者はフォーラムで基調講演を行った久米氏が待つ影森養蚕所へ向かい、桑の葉を食む無数の蚕の見学や作業場などを拝見しました。

(文・特記以外撮影：横浜歴史資産調査会広報 伊藤丈志)



秩父神社に集合して街あるきをスタート



黒門通りには秩父銘仙の取引が行われていた3軒の出張所の建物が残る



番場通りには歴史が漂う旧煙草店(右)や旧大月旅館別館(左)が並び(撮影：米山淳一)



影森養蚕所では作業場や桑の葉を食む蚕をまじかに見学



第48回 歴史を生かしたまちづくりセミナー 「横浜の伝統産業をまちづくりに生かす」

横浜は安政5（1858）年日米通商修好条約の締結により、翌安政6年に開港しました。開港後、特に生糸の輸出で多くの外貨を獲得しました。そのおかげで日本国は近代化が進み、横浜も都市の骨格を築きました。貿易港として繁栄すると異国から多くの人々が来港し、お土産を求めるようになりました。そこで人気を博したのが陶磁器です。眞葛焼や横浜焼（墨田焼）が知られ、その作風は海外の皆さまを魅了しました。

また、絹織物を染める捺染の技術も盛んになりました。鮮やかで品格あるデザインや風合いから、横浜スカーフとして愛され、海外の皆さまばかりか国内でも評判となったのです。

さらに、家具職人も活躍しました。山手西洋館を訪れて木製の重厚な時代物のテーブルや椅子などを目にしたことはありませんか？ 現在、111番館「ラフィン邸」のホールの真ん中に鎮座する大きな丸テーブルはまさしく横浜家具です。横浜には職人技を感じる伝統の技が今も生きているのです。

今セミナーを通じ、横浜ならではの伝統産業を文化として捉え、守り、育て、伝え、横浜らしいまちづくりに生かす道をみんなで考えてみたいと思います。

みなさまぜひご参加ください。お待ちしております。

※詳細は、後日ホームページ、チラシでご案内いたします。

●日時：令和8年9月20日（日）13時30分～16時30分

●場所：横浜山手西洋館ベリック・ホール

●記念講演：横浜の伝統産業を守り、伝える
岡部昌幸（帝京大学名誉教授）

●基調講演：世界を魅了した幻のやきもの 眞葛焼
山本博士（株三陽物産代表取締役）

●シンポジウム

テーマ：「伝統産業をまちづくりに生かす」

横浜絹織物、横浜家具、眞葛焼、横浜焼を事例として

パネリスト：高橋典子（シルク博物館館長）

山本博士

コメンテーター：岡部昌幸

コーディネーター：米山淳一（当公益社団常務理事）

資料代：500円（ヨコハマヘリテイジサポート会員300円）

・主催／公益社団法人横浜歴史資産調査会

・後援／公益財団法人横浜市緑の協会

横浜市都市整備局 都市デザイン室



明治時代 初代宮川香山作 個人蔵



家具職人の心意気を感じる横浜家具のテーブル 山手111番館

■歴史を生かしたまちづくり相談室

老朽化、修理費、固定資産税、相続税など歴史的建造物に係るご相談を受け付けています。ご相談は、ヨコハマヘリテイジ事務局まで。

Tel・Fax：045-651-1730 E-mail：yh-info@yokohama-heritage.or.jp

■旧モーガン邸再建のためご寄付のお願い

再建にあたり当公益社団では再建委員会（委員長水沼淑子）を開催し、再建計画、事業計画等をまとめ、事業を推進中です。再建費用は、日本ナショナルトラストから引き継いだ火災保



焼損して約20年 再建はみんなの願い

険の一部と皆様のご寄付で賄います。目標額は1億円。現在、たくさんのご寄付を賜っております。あと一歩です。引き続き皆様のご寄付を心よりお願いいたします。

（常務理事 米山淳一）

個人＝5,000円（一口）／団体・企業等＝100,000円（一口）

一口から何口でもありがたくお受けいたします。ご寄付いただいたみなさまのお名前は、再建した建物室内に掲出させていただきます。

■歴史を生かしたまちづくりファンド

歴史的資産の保存活動推進のために「ファンド」を創設しています。おいくらからでもみなさまにご寄付をお願いしています。

●振込先：ゆうちょ銀行 口座番号：00270-4-124271

●加入者名：公益社団法人 横浜歴史資産調査会

※モーガン邸再建のためのご寄付には、お振込みの際、お手数ですが、「モーガン邸寄付」と明記をお願いします。

※当公益社団法人へのご寄付は、特定公益増進法人のため税法上の優遇措置が適用されます。詳しくは事務局からご説明させていただきます。

ご寄付をくださったみなさま。ありがとうございました。

（令和8年4-6月分／敬称略）

●旧モーガン邸再建のための寄付

徳重淳子	10,000円	小川文雄	5,000円	栗山直子	10,000円
小林守利	5,000円	木阪尚志	5,000円	佐藤里紗	10,000円
金木伸浩	10,000円	安川千秋	5,000円	石黒 充	10,000円
渡辺一男	10,000円	藤井健一	5,000円		
山崎哲也	5,000円	中川あき	5,000円		

●歴史を生かしたまちづくりファンドのための寄付

（株）日経映像	100,000円
ファンタルーブ 菊川薫	50,000円
（株）レマン	50,000円

ヨコハマヘリテイジスタイル 2026年夏号 発行：2026年7月

【発行】公益社団法人横浜歴史資産調査会 【事務局】〒231-0012 神奈川県横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405

【TEL・FAX】045-651-1730 【E-Mail】yh-info@yokohama-heritage.or.jp

【ホームページ】https://www.yokohama-heritage.or.jp